

京都宣教教会の取組

京都宣教教会 姜直子

1 教会紹介

京都宣教教会は、1992年韓国のイエス教大韓聖潔教会（ホーリネス教団）から宣教師が大阪に派遣され大阪宣教教会が設立されたことから始まります。

大阪宣教教会では、2001年頃から留学生が集うようになり、現在、京都、名古屋、中国（北京、上海、瀋陽）に枝教会がありますが、京都、名古屋共に留学生が多く集っています。

京都宣教教会は、2004年京都市南区に設立され、教会員増大に伴い現在は東山区に移転し、今に至ります。

教会には毎日曜日に約130人前後の人々が集い、平日も水曜、金曜の祈祷会、月曜～金曜の朝の祈祷会には30～50名集まっています。教会の構成メンバーは、90%が留学生（うち中国人90%、その他はインドネシア、韓国、タイ、ミャンマー、ジャマイカなど）

教会ではキリストの教えを中心とし、互いに兄弟愛を持って愛し合い、助け合い、それぞれ与えられている能力がより良く用いられるよう日々努めています。

2 留学生生活支援、共存

(1) 生活面

- ・教会員が中心となって、生活と学業の向上の為、家をシェアし、規則正しい生活を送っています。（食事当番、掃除当番、早寝早起き、など）

家をシェアする事により、家賃、光熱費の節約になり生活も規則正しくなり、相談相手もいるので寂しさも軽減されます。（ホームシック、異文化でのストレス、問題解決など）

- ・アルバイト紹介・・・アルバイトをしなければならない留学生が多いです。留学生にとってアルバイトは学業並みに重要です。
- ・自転車無料修理・・・ほとんどの留学生はどこに行くにも自転車を使います。早い人は1年、平均でも2～3年で自転車が潰れています。修理代も馬鹿になりません。教会では修理を無料で行っています。

(2) 学業面

- ・家をシェアする事により、勉強も助け合う事が出来ています。
- ・優秀な学生、卒業生たちが留学生の入試の為、ボランティアで勉強を教えます。（日本語、数学、理科、模擬面接など）、
- ・同じ学校、学部の先輩からのアドバイスも受けることができます。

(3) 教会行事を通して

行事に参加し、協力し合う事によって、お互い理解し合い 輪が広がり、能力が発揮されたり、発見されたりしています。行事の中ではみんな笑顔が絶えません。

- ・留学生対象バザー：来日して間もない留学生と来日中の生活支援の為に実施（価格はすべて200円以下）
- ・その他：クリスマス、イースター、運動会、遠足、異文化交流会、得意分野披露大会など

3 地域との共存

(1) 鴨川掃除隊

鴨川河川敷、教会近隣の掃除を定期的に行う

(2) 近くの老人養護施設でのボランティア

誕生日会やイベントの時に民族舞踊、音楽、劇などを披露

(3) 地域の高齢者の手伝い

教会の近隣は高齢のひとり暮らしの方が多く、荷物運び、電球換え、ゴミ出しなど力仕事の手助けをしている。

(4) 地域の方々との交わり

教会の働きの一つである近隣の、高齢者、一人暮らし、障害者の方々への定期的な訪問に、留学生有志の方が参加し、食事やお茶を共にし、話しをしたり、手伝えることがないか尋ねる事によってお互い助け合い、理解できるようになっている。

(5) 地域との共存での問題、改善点

100名以上の若い留学生が集います。教会が始まって間もないころは文化、習慣の違い、留学というある種の解放感から近隣に迷惑をかけた事が多く（騒音、ゴミ捨てなど）、牧師、伝道師が対応に追われましたが、一つ一つ解決の為、近隣の方々と話し合ったり、教会内で規則を決め、改善を図っています。（夜、大声で話さない事。近隣掃除をする事により、ゴミ捨てがなくなった）

まだまだ改善点はありますが、失敗や知らなかった事を通して、留学生たちは「地域と共存する」事を学んでいます。また、ある地域の方から「最初はうるさい外国人がたくさん来て嫌だと思ったが、話してみるといい子たちだね」と言われたことも嬉しい事でした。

また、一人暮らしの方で、教会による家庭訪問をきっかけに教会へ集うようになった方が、「いつも外国の人が沢山集まって何してるんだろうと思ってた。誘ってもらわなかったら、ずっと遠くから そう思っただけで、自分からはこの中には入れなかっただろう。留学生の皆さんと仲良くなれて楽しい。良かった。」と言われたことから、教会が地域と留学生、外国籍の方を結ぶために出来る事がたくさんある事を教えられています。

4 留学生の問題点

(1) 学業とアルバイトの両立（精神面、肉体面、学業面）

・アルバイト先でのストレス

言葉がよく理解できない、ミスをして叱られる、肉体、精神の疲労）

・学業

日本人生徒と肩を並べて学ぶので高度な理解力を要求される。外国語で学ぶ現実）

→留学に来ているんだから当たり前、と思われるが、実際、留学生の現実には厳しい事が多い

(2) 金銭問題

大学の受験費用、入学してからの学費、諸費用等

例：一つの大学に合格し、そこで入学金を払ってしまうと、他の大学を受験する費用がない。（もし入学金が返金されるなら、さらに上のレベルの他大学を受験できる）

(3) 日本の生活に適応する事

時間がかかっても順応でき、対応できるようになり、広い視野で自分、母国、日本を見、理解できれば良いのだが、日本の環境、習慣、に慣れず、志半ばで帰国する方もいる。

5 教会としてのこれからの課題

(1) 場所、建物の問題

約130名の信徒が毎週集います。(内、外国籍95%、外国籍の中で留学生は90%)

現在の場所では狭く、建物も粗末です。留学生たちの活動を守り、継続するためには移転が必要です。

(2) NPO法人設立

今まですべての支援を教会がしてきましたが、費用、人材面等で十分な事が出来ていません。より留学生が留学生生活を成功させ、能力が発揮、発掘され、世界で用いられるため、留学生OBの方々と共にNPO法人の設立を進めています。

この法人の設立により、4で記しました「留学生の問題点」が少しでも改善される支援ができる事を目的としています。

例：留学生の生活向上機能が整えられた学生寮（生活、精神の健康、学業向上）、留学生の就職斡旋（学んだ知識、技術が生かされるよう、日本、母国、他国で就職できるよう）、現在教会でボランティアで行っている語学教室の運営など、留学生の為の働きの法人化